

～欣浄寺法語メール～2017年12月～

「円居（まどい）せん」

初めて買ったレコードは歌謡曲では由紀さおりの「夜明けのスキヤット」、クラシックではドヴォルザークの交響曲「新世界より」でした。楽譜は読めませんが箏をタクト代わりに指揮者を気取りながら繰り返し聴きました。第2楽章の郷愁誘う調べは我が国では「遠き山に日は落ちて」という童謡で知られています。「遠き山に日は落ちて 星は空をちりばめぬ・・・」メロディーとともに口ずさむことの出来る方も多いでしょう。最後は「風は涼しこの夕べ いざや楽しきまどいせん」と終わるのですが、浅学にして最近まで「まどいせん」は帰宅して風に当たりながら窓辺で星をながめているさまを歌ったものだと思

っていました。ところが「まどい」は「円居」と書き、円く座る様子を表し団らんを意味する言葉と知りました。一日の仕事を終え、誰かが待っている円居を楽しみに帰路につくのです。

今年から連研（連続研修会の略）が始まりました。毎回同じメンバーが集まり、明年の9月まで毎月員弁のお寺を持ち回りに開かれます。この研修会の特徴は、10名程のグループによる車座になっての話し合いです。「私にとって幸せとは何でしょう」「他人からどう思われているか、気になって仕方ありません」「お浄土とは何ですか」などのテーマについて思いを述べ合います。最初はぎこちない雰囲気でしたが、徐々に打ち解け今では皆さんの「円居」が座る姿だけではなく、気持

ちまで円くなっておられるのは嬉しいことです。

ほどなく年の瀬、今年一年拙文にお付き合いいただきありがとうございます。「いざや 楽しき まどい」の中で新年をお迎えくださいますよう念じています。